文化財調査・普及員通信

さねさし

第 27 号

発　行

平成 26 年 3 月 8 日

相模原市文化財調査・普及員
広報グループ

文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク

両手のひらと日本建築伝統の組物をイメージしたもの

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

目　次

① 春の女神ギフチョウ
② ・「東海道を行く」その３
・文化財展に参加して
③ ・季節を先どり　ちょっと早目の節分豆まき
・田名地区の貴重な「二十六夜塔」
④ ・文化財マップ紹介―東部班
～古淵の境川流域歴史散策～
・文化財保護課からのお知らせ

春の女神ギフチョウ

～今年も観に行こう～

ギフチョウは、岐阜で見つけられた蝶と云うことですが、旧藤野町の石砂山（いしざれやま）にも生息しています。昭和 57 年に県天然記念物に指定され、その後、篠原地区の有志による「しのばらギフチョウの会」や「県森林組合」の努力もあって毎年観ることができます。

私たち文化財調査・普及員津久井班は、「しのばらギフチョウの会」の方々といっしょに、春先に向けてのギフチョウの監視路の整備に参加予定でしたが、この 2 月に入ってからの記録的な大雪のため延期になってしまいました。

そのため、「しのばらギフチョウの会」の河内会長からお聞きした事を記します。ギフチョウはこの葉の裏側に卵を産み付け、幼虫はカンアオイの葉を食べて成長します。成虫の蝶になってからは、タチツボスミレやカタクリの花の蜜を吸っています。そのため、カントウカンアオイやタチツボスミレが多く生息していることが住みやすい環境になります。特にカントウカンアオイの生息環境はむずかしく、森林の下刈りなどもよく行っておかなければならないようです。

カントウカンアオイ

カントウカンアオイは、地面から 10～15㎝程の高さで、葵の葉に似たハート形の葉を広げます。しかし、枝木や落ち葉に埋もれてしまったり、踏みつけられてしまうと生育できなくなってしまいます。そのため今回、大雪が降って心配です。

ギフチョウ

昨年は、4 月上旬に石砂山山頂でギフチョウ数匹が乱れ翔んでいるのを観て、大変感激しました。3 月下旬から 4 月中旬くらいまで翔ぶようです。ギフチョウとカントウカンアオイ、タチツボスミレについては、インターネット検索、図鑑等で確かめていただくと良いかと思います。ギフチョウは、おおまかに黒と黄色の縞模様があります。

「春の女神」と言われるようにカタクリの花が咲き、桜が咲くころに春を喜ぶかのように乱舞するギフチョウと、カントウカンアオイとタチツボスミレの生育する自然環境を観察しながら、東海自然歩道をハイキングしてみてはどうでしょうか。ギフチョウについての問い合わせは「しのばらギフチョウの会」河内正道会長、電話０４２－６８９－２１４２まで。

（津久井班　土屋）

古道･地名班パートⅢ「東海道を行く」その３－毎月第一火曜日実施

平成 21 年 7 月 7 日東京日本橋をスタートして約 4 年半が経過し、漸く大磯宿に着きました。その間「さねさし 15 号」で品川宿近辺を「さねさし 21 号」で藤沢宿等の近辺の中間報告をしました。平成 25 年 12 月 3 日は 90 回目の活動日となりました。

この日の主な見学地は、①大磯駅、②妙昌寺昭和 16 年 1 月 14 日に左義長（さぎちょう）見物に来て大磯が気に入り、この地に住むことにした③島崎藤村の旧宅、④伊藤博文邸の滄浪閣、⑤宇賀神社、⑥八阪神社、中世の小磯城跡一帯を整備した⑦県立大磯城山公園、それに「湘南の丘陵と海」をテーマに地域の歴史・文化・自然に関する資料を集め展示、公開している⑧大磯町郷土資料館、吉田茂元首相の養父で貿易商の吉田建三氏が建てた別荘で、戦後、総理が外国からの貴賓を招くために利用された⑨旧吉田邸。しかし、平成 21 年の火災で大半が焼失してしまい現在、内門（兜門）、銅像、七賢堂などが残っています。内門はサンフランシスコ講和条約を記念して建てられた門で、別名「講和条約門」とも云われています。また兜の形に似ていることから「兜門」とも呼ばれています。七賢堂には岩倉具視・大久保利通・三条実美・木戸孝充・伊藤博文・西園寺公望・吉田茂が祀られています。身代わり地蔵がある⑩西長院、⑪宝前院と回り最後に大磯駅に戻りました。

吉田茂像

旧吉田邸　内門（兜門）

毎回ながら新しい発見もあり楽しいフィールドワークが続いています。今年中に箱根までは行きたいと思っていますが、この先どこまで行けるのかメンバーも予測出来ません。早く次の予定の甲州道中（街道）に行きたいと考えている班員もいます。　（古道班　光廣）

文化財展に参加して

時は平成 26 年 2 月の 14 日、今年 2 度目の大雪の降る中で、第 39 回相模原市文化財展は始まりました。県下でも有数の規模と伝統を誇る文化財展ではありますが、市内の電車・バス等の交通機関が完全なマヒ状態となるような大雪には勝てず、事前予想の半数以下、ないしは 3 分の 1 以下の来場者数ではなかったかと思います。しかし、そんな大雪にもめげず、しかも海老名市などの遠方より来場された熱心な方もいて、天気さえよかったらばなぁ、と残念無念の思いでした。

今回、相模大野のユニコムプラザさがみはらでの文化財展ということなので、南区に関わりのある「行幸道路が物語る軍都・相模原」という展示内容にしました。かつて、小田急線沿線に陸軍士官学校、陸軍病院、通信連隊、通信学校などが、横浜線沿線には造兵廠、兵器学校等が次々に設営されて、文字通り「軍都・相模原」と化したわけですが、その象徴が「行幸道路」だったわけです。天皇陛下が士官学校の卒業式に臨むために通られたことから「行幸道路」と称されました。さらに、一度だけ陸軍病院の傷病兵を見舞いに来られただけでも、「行幸記念碑」が建てられたりしました。今では考えられない時代状況だったのです。その時代の生き証人が今も私たちが住む町中にヒッソリと佇んでいます。それらを写真展示で紹介しました。

来場者こそ少なかったけれども、当時のことをよくご存知の方がいて、その方々の貴重なお話を聞けたのは大収穫でした。文化財展に参加して良かった！と感謝しております。

（東南班　山田）

展示資料

発表の様子

季節を先どり　ちょっと早目の節分豆まき

1月26日（日）市内大島にある古民家園で一足早い豆まきを行いました。

節分は季節を分けるという意味で、もともとは季節の変わり目の行事でしたが、現在は立春の前日だけ節分と云って、各地で豆まきが行われています。

家庭では年々「豆まき」をすることが少なくなっているようですが、まず節分の起源とされている事柄から現在に至る経緯などについて簡単に話しました。それから炒った大豆を一升ますに入れ、今回特別参加の緑区のイメージキャラクターのミウルちゃんと一緒に「福は内」「鬼は外」心の鬼を追い払え！とばかりに70余名の参加者とともに声を張り上げました。

豆まきのあと、庭に出てミウルと記念撮影。ここでミウルは名残を惜しみながら帰路につきました。

ミウルと豆まき

室内に戻って、皆でビンゴゲームで盛り上がりました。それぞれ手持ちのカードにない番号を順に云い合って、あちらこちらでリーチの声が上がりながらも、なかなかビンゴになるのは大変でしたが、ビンゴになった順に用意のささやかな景品を各自選んで楽しんだところで、いろりの中の串ざしのいわしが焼きあがり、食しました。

最近は家でいわしを食べることが少なくなっているせいか、不思議なものを見る様な表情の親子もいましたが、炭火で焼いたいわしがめずらしく、骨まできれいに食べていました。残った頭は串に刺したまま玄関の柱に結わえつけた、ひいらぎを角に見たてたわら人形（？）にさして終了になりました。

（古民家園事業実行委員会　西田）

いわしの頭をわらに刺したもの

田名地区の貴重な「二十六夜塔」

田名新宿自治会館の構内に「二十六夜供粮」、台石に「善女人講中」と刻まれた塔が建っています。「文化十二年八月吉祥日」とあり、1815年に女性達が建てたものです。

二十六夜行事は江戸時代の文化、文政のころ全国的に流行した月待ち信仰(十五夜、十六夜、十九夜、二十二夜、二十三夜、二十六夜など)の一つです。二十六日の夜に月の出を待って、講中という仲間が当番の家に集まり、「愛染明王」の掛軸をかけ、灯明をあげ、供物を供えて念仏を唱えた後、飲食を共にして過ごす行事です。

当時、田名新宿は農業と養蚕・機織りで生活をしており、農家の女性が養蚕の守り神として二十六夜の月を拝み、養蚕の発展と機織りの上達を願って行事を行っていました。

月待行事を行った講中で、供養の記念として塔を造立することがあり、特に二十三夜講に集まった人々の建てた二十三夜塔は全国に広くみられます。

江戸を中心に大流行をみせたと言われる二十六夜講に関しては、信仰の広がりに比べて遺されている二十六夜塔が極端に少ないということです。相模原市史によれば、旧市域では二十三夜塔は14基あるが、二十六夜塔の造立は2基で神奈川県内でもほとんど見られない貴重なものだそうです。

市域の2基は今回紹介した新宿と田名の望地（文久2年1862年造立）にあります。また同じ田名の半在家に二十三夜と二十六夜を1つの塔に刻んだ1基（文化4年1807年造立）があり、田名地区の当時の様子が垣間見えます。田名地区を訪れるときは貴重な二十六夜塔にも注目して下さい。

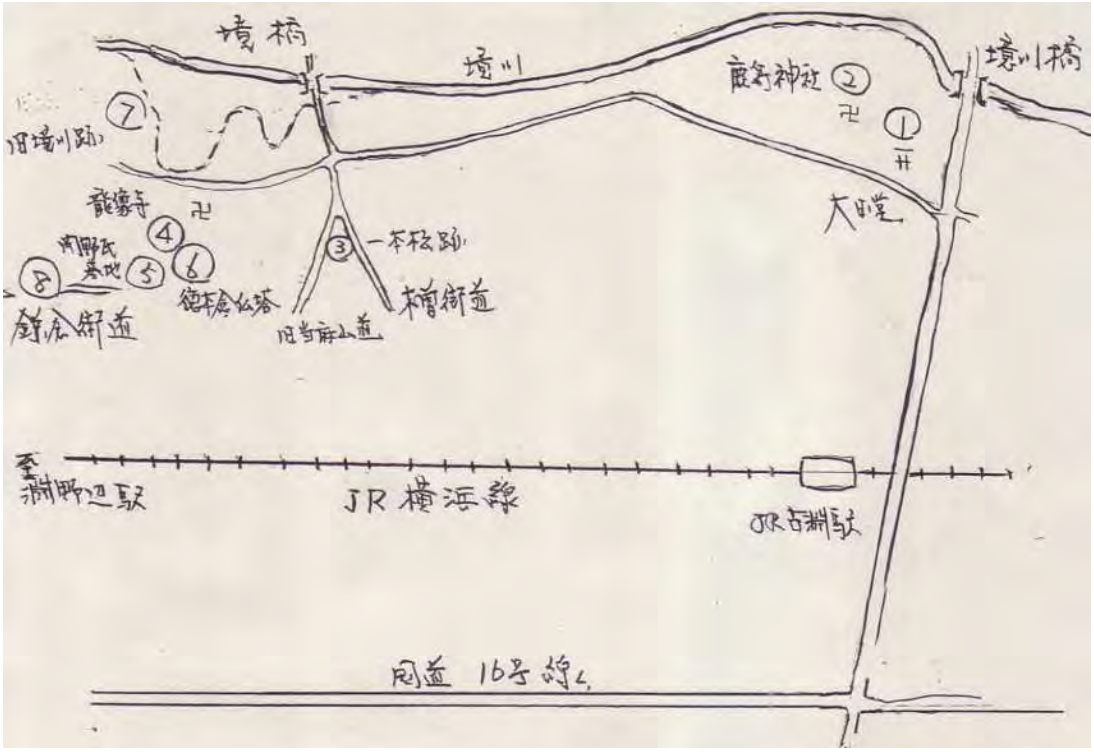
（望地は望地バス停の所、半在家は田名小学校の所）

（西部班　尾梶）

新宿自治会館の
二十六夜塔

望地の二十六夜塔

古淵の境川流域歴史散策



今回はJR古淵駅より境川にそって歩いてみましょう。

①大日堂。毎月7日に、ご縁のある婦人が集まり、和讃を唱えています。メンバーは6名ですが、後継者の加入がなく、継続が心配とリーダーの細谷さんの話です。

②鹿島神社。神社の行事に、だんご焼（ドンド焼）があります。先端が三つ又になった木の枝に、団子三個を刺して焼き、焼いた団子を他の人と取り換える『とっかえ団子』です。今年は1月12日の昼に行いました。

③旧当麻山道（一本松跡地）。時宗の信者が往来した道で木曽（町田市）から龍像寺坂を通り当麻山に至る道です。なお、東側の道は「木曽街道」別名「行者道」と呼ばれ、大山信仰に関わる人々が往来したといわれています。

④龍像寺。伝承では淵辺義博が龍を退治した時に胴の落ちた所に建てられたと伝えられています。境内には、市指定史跡の⑤岡野氏墓地や、市登録文化財の⑥徳本念仏塔もあります。

⑦境川旧河川跡。龍像寺坂から龍像寺に向かう北側の窪地が境川の旧河川跡です。かつての境川の景観を残す場所として大切にしたいものです。

⑧旧鎌倉街道。龍像寺の南側、相模原台地の北の縁を街道が通っていたと云われています。現在ではその詳しい場所は分からないですが、この街道の一部と伝えられている場所です。竹藪の中を通る昼間でも薄暗い小道でしたが、今では整備され遊歩道も出来、大変明るくなりました。

（東部班　大石）

文化財保護課からのお知らせ

・考古企画展　相模原市の遺跡2014「境川流域の開発と暮らし」が博物館で開催！

多摩丘陵と相模野（原）台地の間を流れる境川流域の遺跡や、人々の暮らしについての展示を市立博物館との共催で行います。

期間：平成26年3月21日（金）～5月6日（火）

午前9時30分～午後5時（5月5日を除く月曜日と4月30日は休館）

会場：相模原市立博物館　特別展示室　　※観覧無料

速報展示「さがみはら発掘最新情報」も同時開催します。市内の最新発掘成果を紹介します。

＊文化財調査・普及員の活動や、通信紙「さねさし」のバックナンバーは市のホームページから閲覧できます。

発行連絡先　相模原市教育委員会　文化財保護課　電話０４２－７６９－８３７１